2023（令和5）年8月発行
発行元　川崎市

新たなミュージアムの整備に向けた取組

川崎市市民ミュージアムは、中原区等々力緑地内に博物館、美術館の複合施設として30 年以上に渡り活動を続けてまいりましたが、令和元年東日本台風により被災し、現在も休館を余儀なくされております。

この状況を受け、今後のあり方についての検討を重ね、 2021（令和３）年 11 月に**「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」**を策定し、2023（令和５）年５月には、新たなミュージアムの事業展開の方向性や開設候補地（多摩区生田緑地ばら苑隣接区域）等、その整備の概要について示すため、**「新たなミュージアムに関する基本構想」**を策定しました。

今後は、新たなミュージアムのより具体的な事業内容や想定施設規模、開設地等を示す**「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」**を策定する予定です。

■ 新たなミュージアムの「使命」及び「めざす姿」

（新たなミュージアムに関する基本構想〔2023年5月策定〕より）

●使 命

市民とともに、川崎の「これまで」をたどり、「これから」のあたらしい川崎を彩る

- **新たなミュージアムは、街道や宿場、工業都市としての発展など川崎の特色ある歴史や多様な文化を、市制以前を含めた「これまで」として振り返り、引き継ぐとともに、「これから」の未来をより豊かに彩るための活動を展開します。**
- **川崎の文化芸術の魅力が詰め込まれたモノ、ヒト、コトをつなぐことで、川崎のこれからを切り拓く礎である市民の考える力や協働する力を育て、よりよいまちづくりに貢献します。**

●めざす姿

新たなミュージアムは、「使命」に基づき、次の**５つの「めざす姿」**の実現に向けて活動していきます。また、**市民にとって、「日常」に彩りが加わる「非日常」を感じられ、文化芸術をはじめとした様々な世界とつながることができる場**として活動していきます。

① 過去を紐解き、現在を記録し、未来へつなげるミュージアム
② モノ、ヒト、コトをつなぎ、交流を創出するミュージアム
③ 日常と文化芸術をつなぎ、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム
④ 既知と未知をつなぎ、共創を通じてともに成長するミュージアム
⑤ 地域社会の担い手となる人材を育成するミュージアム

■ 新たなミュージアムの活動イメージ

（新たなミュージアムに関する基本構想〔2023年5月策定〕より）

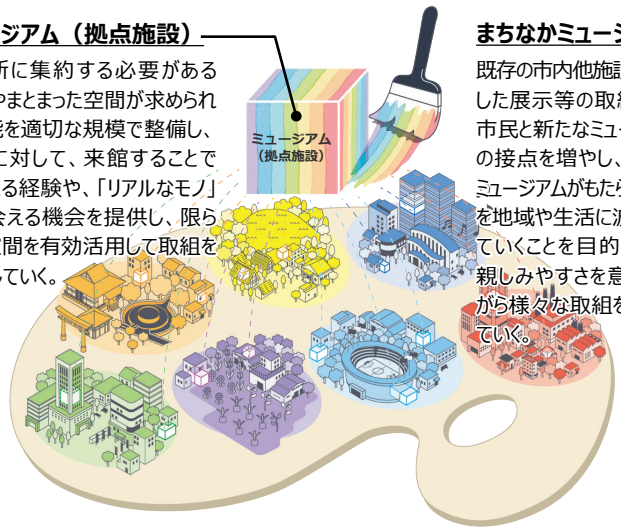
新たなミュージアムは、１か所に集約する必要がある機能やまとまった空間が求められる機能（収蔵庫、常設展示室、修復用諸室、創作活動やイベントのための大規模な屋内空間など）で構成し、来館者や学芸員等のスタッフが効果的・効率的な活動ができる施設を**「ミュージアム（拠点施設）」**として適切な規模で整備するとともに、市民の誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめるものとなることを目指し、市域の多くの場所で人々が新たなミュージアムの活動に触れられるよう、**「まちなかミュージアム」**の取組を展開していきます。

「まちなかミュージアム」では、既存の市内他施設を活用した展示をはじめ、デジタル技術を活用した取組や野外プログラム・体験プログラムなどの施設に捉われない柔軟な取組なども検討していきます。

「ミュージアム（拠点施設）」と「まちなかミュージアム」

ミュージアム（拠点施設）
１か所に集約する必要がある機能やまとまった空間が求められる機能を適切な規模で整備し、市民に対して、来館することで得られる経験や、「リアルなモノ」に出会える機会を提供し、限られた空間を有効活用して取組を展開していく。

まちなかミュージアム
既存の市内他施設を活用した展示等の取組により、市民と新たなミュージアムの接点を増やし、新たなミュージアムがもたらす効果を地域や生活に波及させていくことを目的として、親しみやすさを意識しながら様々な取組を展開していく。



■ 新たなミュージアムの開設候補地

（新たなミュージアムに関する基本構想〔2023年5月策定〕より）

市全域で開設候補地を検討した結果、市有地である**「生田緑地ばら苑隣接区域」**（右図参照）は、被災想定区域（ハザードマップ）の該当がなく、十分な敷地規模を有していることに加え、周辺に文化施設が多いほか、ばら苑をはじめとした緑豊かな自然環境に囲まれ、「豊かな自然と歴史・文化・芸術の拠点」である生田緑地のエリアコンセプトに照らすと、新たなミュージアムの事業展開はエリアとの親和性が高く、周辺環境に即した多彩な取組の展開が期待できるほか、新たなミュージアムの開設に伴い、関連計画等との相乗効果により周辺エリア全体の大きな魅力向上に資する可能性があるなど、新たなミュージアムの開設にあたって多くのメリットが考えられる場所といえるため、新たなミュージアムの開設候補地とします。

今後、正式な開設地としての決定を目指し、関係団体等と協議・調整し、アクセス面での課題、自然環境への配慮、道路・インフラ整備等の想定される課題に対して、関連計画との整合性を図りながら取組を進めていきます。

※位置図中の楕円の点線は、開設候補地のおおよその位置を示したものであり、詳細な範囲は今後検討する。

■ 今後のスケジュール

川崎市総合計画 第３期実施計画期間中（2025（令和７）年度まで）に、より具体的な事業内容や想定施設規模、開設地等を示す**「（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画」**（以下「基本計画」という。）及び管理運営手法等を示す**「（仮称）新たなミュージアムに関する管理運営計画」**（以下「管理運営計画」という。）の策定に向け、取組を進めていきますが、**現時点で想定される最短のスケジュール**は次のとおりです。

策定予定時期（見込）	内　　容
2024（令和６）年 秋頃	（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画　策定
2025（令和７）年 秋頃	（仮称）新たなミュージアムに関する管理運営計画　策定

※ 本スケジュールは想定される最短のものであるため、社会状況や他の計画等の動向も踏まえ、変更が生じる可能性があります。

今後、基本計画策定に向けては、ワークショップやオープンハウス、アンケートなど様々な手法により、市民の皆さまのご意見をお伺いさせて頂く予定です。（実施の詳細等については、それぞれ市政だよりやホームページ等でお知らせいたします。）

■ よくあるご質問にお答えします

Ｑ１　新たなミュージアムは、いつ開館するの？

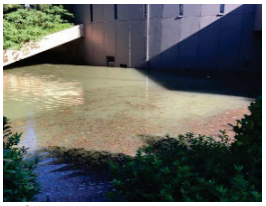
現時点では、未確定要素もあり、正確な開館時期をお示しすることは困難ですが、基本計画策定後には、整備スケジュールなどをお示しすることができるものと考えています。なお、今後、基本計画、管理運営計画を策定し、さらに、基本設計、実施設計、工事などのプロセスを経て開館となりますが、それぞれに必要な標準的期間を考慮すると、6、7年程度はかかると考えられるため、2029（令和11）年以降になることが想定されます。

Ｑ２　新たなミュージアムの特徴やこれまでの市民ミュージアムとの違いは？

博物館と美術館が複合化した全国でも数少ない市民ミュージアムの特徴をさらに進化させ、融合していきます。また、市内のあらゆる場でアート等を体験、体感できる「まちなかミュージアム」の活動を通じて、より多くの市民の方々に新たな市民ミュージアムの活動に触れてもらえるよう、特に力を入れていきたいと考えています。

Q３　現市民ミュージアムの令和元年東日本台風による被災はどんなものだったの？

2019（令和元）年10月12日に関東地方を通過した令和元年東日本台風により地階に大量の雨水が流入し、館内の電気設備等が使用不能となり、９つの収蔵庫が全て浸水し、収蔵品約30万点のうち展示品等を除く約24万５千点が被災しました。 被災後には、国立文化財機構などの全国の博物館、美術館関係者のご協力をいただきながら、被災収蔵品の地階収蔵庫からの搬出、応急処置や修復などを実施し、2020（令和２）年６月にはすべての被災収蔵品を収蔵庫から搬出することが出来ました。被災から３年以上が経過した現在も、外部支援団体や専門家からのご支援・ご指導のもと、被災収蔵品の応急処置、修復などのレスキュー活動を続けています。


（浸水した地下駐車場）

（被災直後の第３収蔵庫（歴史資料等））

（応急処置作業）

Q４　現施設・現在地（等々力緑地内）での再開はしないの？

現施設の従来通りの機能を復旧するためには多額の費用が見込まれ、現在地は洪水浸水想定区域内に立地していることから、２階まで浸水するおそれがあり、収蔵品等を保管する収蔵庫や展示スペース、収蔵庫の温湿度管理に必要な機械室等は３階に整備する必要がありますが、構造耐力上、収蔵庫、機械室等を３階へ整備することは難しく、増築による対応も高さ制限等の観点から困難な状況です。こうした理由により、現施設・現在地での再開は行わず、可能な限り被災リスクの少ない場所に設置することを「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」（2021（令和３）年11月策定）において、決定しました。

（現市民ミュージアム外観（被災前））

Q５　他に開設候補地はなかったの？

新たなミュージアムの開設の可能性がある場所として、「①施設を建設する場合、当該敷地内で建てることが可能な市有地、②被災想定区域（ハザードマップ）のない場所、③現状建築物等がない土地又は使う用途が決まっていない建物及び土地、④博物・美術の融合化に必要な延床面積（1980年代から2000年代に設置された公設美術館（67施設）の平均延床面積（9,746㎡）と同程度以上）が確保でき、ミュージアムという機能上一定のゆとりが必要なため、現施設の建築面積（約8,300㎡）と同程度の土地面積がある場所」の条件により機械的に抽出したところ、「現宮前区役所及び市民館・図書館用地」も該当しましたが、それぞれの場所で施設を整備した場合のメリットや開設に係る課題の解決の可否などについて比較・評価を行った結果、新たなミュージアムの開設候補地として「生田緑地ばら苑隣接区域」に優位性があり、適地と判断し、開設候補地としました。

Q６ 開設候補地へのアクセスは？

開設候補地は、開設にあたり多くのメリットがある場所ですが、一方で、鉄道最寄り駅（小田急小田原線「向ヶ丘遊園駅」、ＪＲ南武線「宿河原駅」）からの距離が長いこと（徒歩22～25分程度）、勾配の大きい坂道があること、公道への接道を確保する必要があることなどのアクセス面での課題がありますので、その解決に向けて、公共交通機関や、新たなモビリティの可能性調査、新たなミュージアムに通じる接道の確保等について検討を進めたいと考えています。

■ これまでの検討において寄せられた市民の皆さまからのご意見

これまでの検討にあたって、市民の皆さまから寄せられた幅広い視点からの様々なご意見をご紹介します。

●市民アンケート（2020（令和２）年９月実施）

- 川崎市の文化財や資料、有名な作家や川崎市ゆかりの作家や作品の展示、子ども向けプログラムがあるとよい。
- 心地よくリラックスできるスペース、緑豊かで解放感のある環境、カフェ・レストラン・ショップがあるとよい。
- 川崎市の歴史・文化・民俗の調査研究や学校での地域学習サポートに取り組んでほしい。

●新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方（案）に対するパブリックコメント（2021（令和３年）９月実施）

- 身近で親しみやすく、年齢に関係なく誰でも利用できる施設にしてほしい。
- 市民が誇れる、シビックプライドの醸成に貢献するような施設にしてほしい。
- 被災してしまった収蔵品も、修復の過程とともに展示してほしい。
- 市民のアイデンティティが形成されるような、歴史博物館としての機能を充実してほしい。
- 多くの人にとってアートが身近に感じられるような美術館にしてほしい。

●様々な施設等へのヒアリング（2022（令和４）年４～12月実施）

- ミュージアムは「鑑賞するところ」というイメージが強く、敷居が高く足を運びにくい印象があるが、体験・体感できるプログラム、SNS映えするスポット、友達と話をしながら鑑賞できる場所があれば、足を運びやすくなる。（高等学校美術部）
- 文化芸術のジャンルは問わず、「非日常」の刺激を受けることで、施設利用者に普段と異なる感情が表出することがある。（高齢者支援施設）
- 触れる展示、体験や遊びのある展示、光ったり音が出たりする展示ならば楽しめる。「汚してもよい」、「壊してもよい」など制約の少ない創作体験ができるとよい（障害者支援施設）

●基本構想懇談会（2022（令和４年度）に４回開催）**の市民委員からの御意見**

- 小さい頃ここで体験したということが、川崎への愛着にも結びつくと思うので、様々な形での体験が重要。
- 「非日常」というキーワードは、若者の立場から見てもとても良いと思う。最近の若者は「特別な体験」を求めている傾向にあると思う。
- ミュージアム内のカフェやレストランが充実していると、足を運びやすくなるのではないか。
- 生田緑地ではアクセスの問題に対してリピーター対策含めて重大な課題になると思う。
- 生田緑地をミュージアムの借景にすることができると思う。

●新たなミュージアムに関する基本構想（案）に対するパブリックコメント（2023（令和５）年３～４月実施）

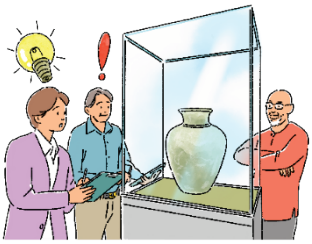
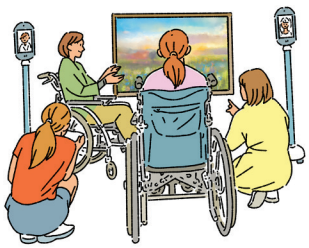
- 川崎にこだわることなく、集客を念頭に置いた、ワクワクドキドキ感を醸成する施設になってほしい。
- 市民の憩いの場として、気軽に訪れて、楽しみ、体験しながら学び、気付きを得るような場だとよい。
- 教育機関や周辺施設等と連携した取組を行ってほしい。
- 「まちなかミュージアム」では、高齢者施設や病院なども含めた多くの施設に対して、多様なプログラムによるアウトリーチ活動を行ってほしい。
- 作品の保存、展示、閲覧においてデジタル化を推し進め、デジタルアートミュージアムを目指してほしい。
- 収蔵品が被災しないよう、収蔵庫の配置や災害対策を検討してほしい。
- 開設候補地に賛成である。
- 開設候補地は駅から遠く高い丘の上で立地条件が悪く、景観や動植物の生育上、問題があるため反対する。
- 新たなミュージアムの学芸員は、市直営としてほしい。
- 市民ミュージアム現施設の除却前に、お別れのために期間限定で施設を開放してほしい。

●新たなミュージアム基本構想（案）説明（多摩区･宮前区関連町内会連合会、総合文化団体連合会、生田緑地マネジメント会議等）（2023（令和５）年３～４月実施）

- 近隣の岡本太郎美術館、藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム、青少年科学館、日本民家園との連携強化を基本計画に入れてほしい。
- 新たなミュージアムの管理運営方法は、他都市の成功事例を研究しながら、よく検討してほしい。
- ばら苑はボランティア活動も盛んなので、連携できるような取組を検討してほしい。
- ばら苑からの景観に配慮してほしい。

●「新たなミュージアムについて考えてみませんか？（基本構想説明会）」（2023（令和５）年７月実施）

- 開設候補地を変更してほしい。
- 向ヶ丘遊園跡地利用計画とともに、総合的に開発を進めてほしい。相乗効果のある賑わいの拠点ができると非常に期待している。
- アクセス面を充実できれば来館者も増えると思う。
- 生田緑地はナラ枯れが深刻化しているように、現状でも保全に課題があるため、施設整備自体に反対する。
- 収蔵品の保管等の観点から、学芸員には長期的な専門家が必要だと思う。
- ばら苑に対して、自然への配慮よりも、積極的に博物館的なアプローチをしてほしい。
- 自然を知らない人が生田緑地に来ると自然へのダメージが増えるので、これ以上来訪者が増えるようなことはやめてほしい。
- 今後、地元の人をはじめ市民の意見、みどりの専門家の意見などを聞きながら進めてほしい。

新たなミュージアムについてのご意見をお寄せください。
（個別の回答はいたしませんのでご了承ください。）

メール：25bunka@city.kawasaki.jp
ファクス：044-200-3248

もっと詳しく知りたい方はこちら↓

川崎市市民文化局市民文化振興室 新たなミュージアム調整担当
川崎市川崎区駅前本町11－２　川崎フロンティアビル９階　電話：044-200-0918